

「大曲南中E S D」について

大仙市立大曲南中学校
校長 須田百合子

本校は、平成22年度にユネスコスクールに認定され、環境教育を中心にE S Dの視点を取り入れた教育活動を展開してきた。また昨年度からは、全教育活動を通じた「コミュニケーション能力の育成」と、問題解決的な学習を核とした授業改善を進めてきた。こうした取組を踏まえ、私たちが目指す生徒の姿、つまり「確かな学力」や「生きる力」を身に付けた生徒を育成するためには、今までの取組を体系化し、E S Dの視点で整理することが肝要であると考え、研究の指針として「大曲南中E S D」を設定した。

E S Dは「持続可能な開発のための教育」であるが、生徒や保護者、地域の方々に分かりやすいようにキャッチフレーズ化し、「E：永遠に、S：住み続けるための D：土台づくり」とした。E S D実現のために、生徒達にどんな力を身に付けさせたいかを検討し、普段の学習で身に付けたい力を「コミュニケーションを行う力」「批判的に考える力」「多面的・総合的に考える力」の3つとした。これは、国立教育政策研究所が提案している「E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の7項目から、本校生徒の実態と私たち教師の願いをもとに選択したものである。

また、総合的な学習の時間を中心に身に付けたい力を、「進んで課題を見つける力」「学んだことを発信する力」「生活に活用する力」の3つとした。本校は、環境教育に関する体験活動を長年継続して行っているが、生徒達に身に付けさせたい力を明確にすることで、更に意義のある充実したものになると考えている。課題設定を重視し、本校生徒の課題である学びの積極的な発信と活用する力の育成を目指したい。

「大曲南中E S D」の目標は、「何とかしなければ！」という思いを行動につなげられる人を目指そう！である。全教育活動でこの研究を進めるということは、普段の学習でE S Dの資質を育て、総合的な学習の時間を中心にそれらを生活に活用する力を育てていくことが大事であると考えている。活用する中で不十分な力を、また学習を通して育てるという双方向のつながりを機能させることが、本校が目指す生徒の育成につながるものと考えている。

持続不可能な様々な課題に気づき、その課題をどう解決したらよいかを考え、自分ができることを実践していける、持続可能な社会の形成者としてふさわしい人材の育成を目指し、今後も「大曲南中E S D」を指針として研究を深めていきたい。

